

平成 30 年度 SSH 生徒研究発表会 参加報告

- ◇期 日 平成 30 年 8 月 8 日(水)～9 日(木)
- ◇場 所 神戸国際展示場 (神戸市中央区)
- ◇参加者 発展探究β 生物ゼミ所属生徒 3 名
- ◇引 率 宮本尚啓教諭



平成 30 年度 SSH 生徒研究発表会が開催され、全国 SSH 指定校から 208 校 (経験校含む)、そして海外 11 か国から 26 校が参加して、日頃の研究の成果を発表し合いました。

本校代表として生物ゼミの 3 年生 3 名が参加し、「植物のがん化」の研究成果を発表しました。これは、植物ホルモン等のストレスに対する細胞の増殖の変化について、植物ホルモンが多い状況を過酷な環境とすると、植物の細胞周期は長くなるという仮説を実証する研究です。

1 日目は開会行事に続き、東京理科大学特任副学長の秋山仁氏の「You can be a scientist from today.～野に咲く可憐な花々に魅せられて～」という基調講演があり、科学に向き合うときに重要な姿勢について学ぶことができました。その後、ポスター発表で、1 年次の基幹探究から始まる探究の授業を通して培ってきた探究・発表の技能を存分に発揮し、2 年次から研究し続けてきたテーマを実験・考察の



面でさらに深化させた研究成果を伝えました。翌日にも行われたポスター発表では、初日の反省を活かし、より成果を分かりやすく伝えることができました。発表を終えて、「鋭く厳しい意見がたくさん出され、研究の良い点と改善点が明確になりました。ここで得たものをもとに、更に研究を改善・継続してゆきたい。」と感じました。

2 日目は、全体発表校に選ばれた学校のプレゼンテーションを聞きました。どの発表もたいへん素晴らしいもので、今後、本校の探究活動の

質を向上させるためのモデルにしたいと感じるほどのものでした。

他校の研究テーマは多種多様で、内容も興味深いものでした。身近なところに研究の題材は転がっていて、どれもおもしろくなりうることを学びました。また発表会に先だって行ったマレーシアの代表校との交流は、国は違えども、同じ科学に興味を持つ仲間同士で、



打ち解けあえたかけがえのない経験でした。

3 年生になってからは、なかなか時間がとれず、思うように研究がすすまないことも多い中で、3 人のメンバーで議論を重ねて研究をしていけたことは大きな自信につながりました。また 1 年次から 3 年間にわたる探究活動や、今回の SSH 生徒研究発表会での学びを活かして、今後も数々の活動に取り組み、成果をあげてゆきたいと思います。

